佐渡島の石工在銘資料—江戸時代—

計良勝範

『日本の石仏』第一〇四号　抜刷　平成十四年十二月二十五日発行

所在村名未確認　一二人

重正(文化)。勘治(文化)。宇右エ門(文政)。慶蔵(文政)。本間、、(天保)。末蔵(天保)。宇兵衛(天保)。国蔵(万延)。豊吉(天保)。忠五郎(天保)。守助(天保)。重右エ門(嘉永)。

佐渡の江戸時代石工として在銘資料にあらわれるのは、二四ケ村中集中的に小泊石工が多い(五六人)。それに椿尾(一三人)と村山(一四人)がつづき、いずれも小泊の左右隣村である。小泊を中心に佐渡の石工が集中しているのは、第一に石細工に適した石切山(石英安山岩)の存在があげられる。あとは一人の村が大半で、二、三人の村が五ケ所となる。他に在銘にあらわれない石工のいる村を知る資料として、天保年、佐渡一国義民の代表者、上山田村(現羽茂町)の中川善兵衛家に「年中入用覚帳」(天保年の記録と思われる)の文書があり、そのなかに次の通り二七ケ村に石工が記載されている。

「大野村　一石工　壱人。長江村　一石工　二人。下相川村　一石大工　拾弐人。羽田村　一石大工　壱人。吉岡村　一石大工　弐人。二宮村　一石大工　壱人　但シ御役銭六百文。田中村　一石大工　壱人。窪田村　一石大工　壱人。市野沢村　一石工　弐人。山田村　一石工　四人。大久保村　一石工　壱人。竹田村　一石工　壱人。和泉村　一石工　壱人。下八幡村　一石工　壱人。新町村　一石工　壱人。安国寺　一石屋　弐人。牛込村　一石工　壱人。米合村　一石工　弐人。下矢施村　一石工　弐人。諏訪町　一石工　札壱枚。徳和村　一石工　四人。羽茂本郷　一石工　二人。瀧平村　一石工　二人。下川茂村　一石工　壱人。村山村　一石工役四貫文。小泊村　一石工鑑札　拾七枚　但シ壱枚ニ付六百文宛。高崎村　一石工　弐人」

なぜか椿尾村の石工の記載がないが、右文書によって、江戸時代佐渡の在銘石工の村二四ケ村以外に、「大野村、羽田村、吉岡村、二宮村、田中村、窪田村、大久保村、竹田村、下八幡村、安国寺、牛込村、米合村、下矢施村、諏訪町」の一四ケ村があげられ、佐渡島二六〇ケ村中(「佐渡巡村記」嘉永六年　一八五三)、両者を集計すると三八ケ村に石工が分布していることが知れる。

なお、江戸初期以前、南北朝時代頃と推定される、相川町橘の差輪にある杉島聖観世音磨崖仏(平肉彫立像、像高一四五センチ)には、向かって左側腰わきあたりに、「宗蓮作」、または「宗道作」と判読される文字が刻まれている。文字は明確ではないが、この像の作者銘で回国聖であろうか。近世の専業石工銘ではないが、参考までに記しておく。

また、松岡雪操「佐渡の石仏石像」(佐渡研究第五号、昭和十年)に、椿尾の地蔵堂内の十王に「文化五辰年伝助」、

衣婆に「文化五年傳七作」などや、その他一、二の在銘が紹介されているが、筆者は確認していなく、ここではとりあげていない。

三、名工弥助、五兵衛、重太郎

佐渡の多くの石工達のなかで、特に知られた名工として、小泊の臼杵弥助、椿尾の安藤五兵衛、中川重太郎があげられる。彼らにはいくつかの逸話がのこる。

弥助は明和年の人であるが、筆者は椿尾の世利川内地蔵堂内の両大師(弘法大師と興教大師)の木製椅子墨書銘一点しか確認していない。他に、小泊の白山神社の鳥居は、額束と額を一つ石で造り出していて、弥助作と言われている。彼の佛像は、佛相をそなえた端正なおももちで、その作柄を弥助風と言っている。在銘資料は多くない。

五兵衛は家号を五郎兵衛という。佛像の作柄は端正ななかに柔和さがにおう。文化文政の在銘で七点確認できる。本稿には入れなかったが、小木町宿根木の称光寺に「為父母」と台石に刻む丸彫の聖観音坐像があり、その像の底部に五兵衛の銘があるという。確認されれば八点となる。畑野町丸山の西龍寺大師堂の弘法大師は、像高一三七センチの丸彫立像の大作で、祭壇の下に台石が覆われていて銘が確認できないため、弥助作とも五兵衛作ともいわれてきたが、五郎兵衛家に残る五兵衛の文政癸(壬の誤り)午年(文政五年、一八二二)の「注文覚」によって五兵衛作と確認される(羽茂町　藤井三好氏資料提供)。

安藤五郎兵衛家に残る五兵衛の「注文覚」

その「注文覚」には、「丸山村行　御佛四尺五寸　へんろたひ志　代拾三貫文」の文字とともに、同形の大師姿が墨で略図が描かれている。

宇賀山金比羅さんの狛犬(No.9)は、高さ三三センチの小形の凝灰岩製で、底面に明和五年(一七六八)の年号とともに「世話人　八助」の墨書がある。明和の名工「弥助」かもしれない。

重太郎の在銘資料には、小木町の一里塚地蔵がある。天保十二年(一八四一)の丸彫坐像の大作で、敷茄子正面に椿の花(寒椿だという)を彫り出している。「本願主信州知嶺」や「講中」の二二名の名前などを刻む。在銘資料は少ないが、椿の花を彫るのを得意とするという。

平成時代は石造物が激減している。そうしたなかで、平成十二年（二〇〇〇）に造顕された新穂村内巻の東光院の半肉彫地蔵立像は、椿尾の石工「石仏師　笠井寛治」の名を刻む。自然の大きな石に彫り込んだ合掌形で、心がなごむ。最近にない佐渡石工の良作と思う。

また、神奈川県の中郡二宮町に、椿尾の石工岡崎功作の百体地蔵が、二、三年前に移出安置されたという（藤井三好氏より）。信仰は生きている。石には神（生命）がやどる。石の文化を大事にしたい。

（平成十四年九月二十八日記）

〈参考文献〉

松岡雪操「佐渡の石像石佛」佐渡研究第二号、昭和九年一月三十日。同、(二)、第四号、昭和十年二月二十日。同「佐渡の石佛石像」同第五号、昭和十年八月一日。同、第八号、昭和十一年十一月十日。
不苦楽庵主人「佐渡の昔ばなし」昭和十二年十一月五日。
『西三川村誌』昭和十三年十二月二十五日。
計良勝範「二見半島の石仏」相川郷土博物館々報第五号、昭和四十一年十一月一日。
計良勝範「大久保石見守長安の逆修塔」いしぼとけ創刊号、佐渡石仏会、昭和四十三年六月二十八日。
京田良志「佐渡相川町の杉島聖観音磨崖仏」『史迹と美術』四二四号、史迹美術同攷会、昭和四十七年五月一日。
『佐渡相川の歴史　資料集二　墓と石造物』相川町、昭和四十八年四月二十日。
祝勇吉「石仏を中心とした佐渡めぐり」昭和五十六年三月一日。
「金井町の石仏」金井町教育委員会、平成元年三月三十一日。
『色々の石仏―新穂』新穂村教育委員会、平成七年九月三十日。
『佐渡羽茂の民間信仰』羽茂町教育委員会、平成九年三月三十一日。

（〒952-01-00　新潟県佐渡郡新穂村下新穂）

〈本の紹介〉
しもつけの石仏探訪　小林正芳著
栃木県内の石仏を探し歩いて十余年、その中から100基を選びまとめたもの。ウハッキュウ道標、神農塔、保食神、鼎醍醐宝塔、御比待供養塔、波之利（はしり）大黒夫、到彼岸塔、等々。見開き二頁にカラー写真と解説がついて読みやすく、栃木県の石仏空間が漂っている。A5判208頁／頒価送料とも二五〇〇円／〒320-0041宇都宮市松原1-8-37　tel.0282（622）4585　小林正芳